

# 教員の指導力と働く意欲を高め、多様性の中で育つ子を支える教育を

三重県 津市教育委員会 教育長 倉田幸則

多様化が加速するグローバル社会の到来を見据え、互いに高め合う子どもの育成を目指す三重県津市。教員への支援体制を充実させ、力を存分に発揮できる環境づくりに力を注ぐ。そのねらいを倉田幸則教育長に聞いた。

くらた・ゆきのり 津市立中学校教諭を経て、津市教育委員会事務局教育研究支援課生徒指導担当主幹や教育次長を歴任。2017年度から現職。

## 研修やサポート体制の充実で管理職や教員の指導力を向上

本市は、県庁所在地として文化や行政の中心的な機能を持つ都市部から、奈良県との境にある山間部まで地域特性に富んでいるため、校区や学校によって抱える課題は様々です。そこで、教育委員会では、各校に指導主事を頻繁に派遣し、学校経営や子どもの状況を把握したり、施策のねらいや内容を直接説明したりするなど、現場との対話による指導や助言に力を入れてきました。

本市が手厚く行っている施策の1つは、人材育成です。施策にいくら予算をかけても、現場の管理職や教員の指導力が伴わなければ、施策の成果は期待できません。

全国的な傾向だと思いますが、本市でもミドルリーダーとなる30~40代の教員の層が薄くなり、管理職の負担が以前と比べて増えています。そこで、まず、管理職に対する支援に力を入れています。2019年度から、新たに管理職に就いた対象者に、学校経営におけるリーダーシップの発揮の仕方、学力向上や安全管理、さらには特別な

支援を要する子どもへのサポートの充実などをテーマにした研修を、年に数回実施しています。

同じく2019年度には、組織づくりや学力向上などに優れた手腕を発揮した校長経験者3人を「学校運営相談員」として再雇用し、現役校長の相談相手とする試みも始めました。それまでは、校長が1人で課題を抱え込む場合がありましたが、学校運営相談員が精力的に各校を訪問し、多くの学校経営のヒントを提供することで、精神的な支えにもなっています。また、学校運営相談員は、管理職向けの研修にも参加し、実践的な助言も行っています。

## 教員の心や時間の余裕が教育施策の成果を高める

教員研修は、働き方改革の一環として集合研修の回数を減らしました。その上で、指導主事が各校を訪問し、研究授業と事後検討会に参加して、学校や教員の個別の課題に応える指導や助言に力を入れる形態にしています。

また、教員の指導力が向上しても、子どもと向き合う心の余裕や時間が

なければ、教育効果は十分に高まりません。そこで、文部科学省によるスクール・サポート・スタッフに加え、2018年度から市の独自予算で、教材や行事の準備などを支援する「教員支援員」を導入し、2019年度には7人を配置しました。まだ全校配置には至っていませんが、現場からは「教材研究や自己研鑽により多くの時間を充てられるようになった」といった声が上がっており、次年度以降、拡大する方針です。

## 目標や憧れを抱き、楽しみながら英語を学べる環境を整える

本市が展開する教育活動のねらいは、郷土に対する誇りを育み、これからの時代をたくましく生き抜く資質・能力の育成にあります。その柱の1つは、グローバルな社会で活躍するために欠かせない英語力の育成です。小学校では、新学習指導要領を先行実施するとともに、教員自身が英語を楽しみながら指導できるようになるための研修の充実、ALTの協力によるデジタル教材やモデルとなる指導案の開発などをしてきました。

また、子どもが英語によるコミュ



ニケーションを楽しむことが何よりも大切だと考え、小学校を対象に、インターネットによるオンライン通話システムを導入して、オーストラリアの小学生と会話をしたり、イギリスの小学生とビデオレターや手紙を交換したりする機会を設けています。さらに、目標や憧れを持って英語を学べるよう、ALTが中心となって小学3～6年生を対象に「津市イングリッシュキャンプ」を実施しており、今年度も200人以上の参加希望がありました。

中学校を対象とした施策では、スコア型英語4技能検定を試験的に5校で実施し、英語4技能5領域の伸びを確認しています。生徒一人ひとりの学習成果や、教員の指導上の課題を可視化して指導改善に結びつけるとともに、学力向上に向けた施策の予算を獲得するために、財政局に働きかけるエビデンスとしても活用したいと考えています。

### 多様性の中で、子どもが互いに高め合えるように

これからの社会を生き抜く人材となるためには、多様な個性の中で互いに高め合っていく姿勢も欠かせません。本市の周辺地域には外国人が働く工場が多くあり、本市の小・中学校でも外国にルーツを持ち、日本語指導を必要とする約600人の子どもが学んでいます。

このことから、2012年度には、約3か月間で初期の日本語を習得できる独自カリキュラムを開発し、地域ボランティアの協力を得て、「きずな教室」を始めました。日本語の習得が必要な子どもが多い地域では幼稚園の空き教室などを利用して常設し、少ない地域では「移動きずな教室」として、ボランティアを派遣しています。

その教育効果は非常に高く、「きずな教室」を始める前は外国にルーツ

を持つ子どもの高校進学率は約5割でしたが、現在では9割にまで増えました。また、子どもが日本語を習得して学びに前向きになると、周りの子どもとの交流も一層活発化し、まさに多様性の中で互いに高め合う関係が生まれています。

特別な支援を要する子どもへの施策にも注力しています。毎年、特別支援教育の支援員を増員し、2019年度には全市立小・中学校に計184人を配置したほか、発達障害などの専門知識を有する人材を新たに5人雇用し、各校を訪問して支援にかかわる助言をしてもらっています。

教育行政の役割は、子どもに直接かかわる教員が最大限の力を発揮できる環境づくりをすることに尽きるのではないのでしょうか。今後も、学校現場とのコミュニケーションや連携を大切にして、教育効果の高い施策を進めていきます。

## 三重県津市 プロフィール



◎三重県の県庁所在地。古くは「日本三津」の1つに数えられる名港であり、江戸時代は城下町としても栄えた。明治時代には紡績工場、高度成長期には造船業や電気産業等を中心に発展。2006年に2市6町2村が合併し、現在に至る。人口 約28万人 面積 約711km<sup>2</sup> 市立学校数 小学校49校、中学校20校、義務教育学校1校 児童・生徒数 約2万人 電話 059-229-3292 (教育委員会事務局) URL <https://www.info.city.tsu.mie.jp/www/sp/contents/1001000010850/index.html>